

三つの視点から5領域及び育てほしい姿への対照表(全体) 参照:幼保連携型認定こども園教育・保育要領

乳児期	満1歳児～2歳児	満3歳児～5歳児	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10項目)とは
<p>基本的な事項</p> <p>1 乳児期の発達については、視覚・聴覚などの感覚や、座る、はう、歩くなどの運動機能が著しく発達し、特定の大人との応答的な関わりを通して、情緒的な絆が形成されるといった特徴がある。これらの発達の特徴を踏まえ、乳児期の園児の保育は、愛情豊かに、応答的に行われることが特に必要である。</p> <p>2 本項においては、この時期の発達の特徴を踏まえ、乳児期の園児の保育のねらい及び内容については、身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」、社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」及び精神的発達に関する視点「身近なものに関わり感性が育つ」としてまとめ、示している。</p>	<p>基本的な事項</p> <p>1 この時期においては、歩き始めから、歩く、走る、跳ぶなどへと、基本的な運動機能が次第に発達し、排泄の自立のための身体的機能も整うようになる。つまむ、めくるなどの指先の機能も発達し、食事、衣類の着脱なども、保育教諭等の援助の下で自分で行うようになる。発声も明確になり、言葉も増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになる。このように自分でできることが増えてくる時期であることから、保育教諭等は、園児の生活の安定を図りながら、自分でしようとする気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに、応答的に関わる必要がある。</p> <p>2 本項においては、この時期の発達の特徴を踏まえ、保育のねらい及び内容について、心身の健康に関する領域「健康」、人との関わりに関する領域「人間関係」、身近な環境との関わりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」及び感性と表現に関する領域「表現」として</p>	<p>基本的な事項</p> <p>1 この時期においては、運動機能の発達により、基本的な動作が一通りできるようになるとともに、基本的な生活習慣もほぼ自立できるようになる。理解する言葉数が急激に増加し、知的興味や関心も高まっていく。仲間と遊び、仲間の中の一人という自覚が生じ、集団的な遊びや協同的な活動も見られるようになる。これらの発達の特徴を踏まえ、この時期の教育及び保育においては、個々の成長と集団としての活動の充実が図られるようにしなければならない。</p> <p>2 本項においては、この時期の発達の特徴を踏まえ、教育及び保育のねらい及び内容について、心身の健康に関する領域「健康」、人との関わりに関する領域「人間関係」、身近な環境との関わりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」及び感性と表現に関する領域「表現」としてまとめ、示している。</p>	<p>第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている園児の幼保連携型認定こども園修了時の具体的な姿であり、保育教諭等が指導を行う際に考慮するものである。</p>
三つの視点より	5領域より	5領域より	10項目より
健やかに伸び伸びと育つ	健康	健康	
<p>【健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力の基盤を増う。】</p> <p>(1) 身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。</p> <p>(2) 伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。</p> <p>(3) 食事、睡眠等の生活のリズムの感覚が芽生える。</p>	<p>【健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。】</p> <p>(1) 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。</p> <p>(2) 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。</p> <p>(3) 健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育つ。</p>	<p>【健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。】</p> <p>(1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。</p> <p>(2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。</p> <p>(3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。</p>	<p>【健康な心と体】</p>
身近な人と気持ちが通じ合う	人間関係	人間関係	
<p>【受容的・応答的な関わりの中で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を増う。】</p> <p>(1) 安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。</p> <p>(2) 体の動きや表情、発声等により、保育教諭等と気持ちを通わせようとする。</p> <p>(3) 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。</p>	<p>【他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。】</p> <p>(1) 幼保連携型認定こども園での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる。</p> <p>(2) 周囲の園児等への興味・関心が高まり、関わりをもうととする。</p> <p>(3) 幼保連携型認定こども園の生活の仕方に慣れ、きまりの大切さに気付く。</p>	<p>【他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。】</p> <p>(1) 幼保連携型認定こども園の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。</p> <p>(2) 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。</p> <p>(3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p>	<p>【自立心】 【協同性】 【道徳性・規範意識の芽生え】 【社会生活との関わり】</p>
身近なものに関わり感性が育つ	環境	環境	
<p>【身近な環境に興味や好奇心をもつて関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を増う。】</p> <p>(1) 身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。</p> <p>(2) 見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。</p> <p>(3) 身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。</p>	<p>【周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもつて関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。】</p> <p>(1) 身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。</p> <p>(2) 様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。</p> <p>(3) 見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする。</p>	<p>【周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもつて関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。】</p> <p>(1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。</p> <p>(2) 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。</p> <p>(3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</p>	<p>【思考力の芽生え】 【自然との関わり・生命尊重】 【数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚】</p>
身近な人と気持ちが通じ合う	言葉	言葉	
<p>【受容的・応答的な関わりの中で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を増う。】</p> <p>(1) 安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。</p> <p>(2) 体の動きや表情、発声等により、保育教諭等と気持ちを通わせようとする。</p> <p>(3) 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。</p>	<p>【経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。】</p> <p>(1) 言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。</p> <p>(2) 人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする。</p> <p>(3) 絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる。</p>	<p>【経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。】</p> <p>(1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。</p> <p>(2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。</p> <p>(3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育教諭等や友達と心を通わせる。</p>	<p>【言葉による伝え合い】</p>
身近なものに関わり感性が育つ	表現	表現	
<p>【身近な環境に興味や好奇心をもつて関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を増う。】</p> <p>(1) 身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。</p> <p>(2) 見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。</p> <p>(3) 身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。</p>	<p>【感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。】</p> <p>(1) 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。</p> <p>(2) 感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。</p> <p>(3) 生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。</p>	<p>【感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。】</p> <p>(1) いろいろなもの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。</p> <p>(2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。</p> <p>(3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</p>	<p>【豊かな感性と表現】</p>

三つの視点から5領域及び育てほしい姿への対照表(健康) 参照: 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

乳児期	満1歳以上満3歳未満	満3歳以上	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 10項目より
三つの視点より	5領域より	5領域より	
健やかに伸び伸びと育つ	健康	健康	【健康な心と体】
<p>【健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力の基盤を培う。】</p> <p>(1) 身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。 (2) 伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。 (3) 食事、睡眠等の生活のリズムの感覚が芽生える。</p>	<p>【健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。】</p> <p>(1) 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。 (2) 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。 (3) 健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育つ。</p>	<p>【健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。】</p> <p>(1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 (2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。</p>	<p>幼保連携型認定こども園における生活の中で、充実感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に動かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。</p>
内容			
<p>(1) 保育教諭等の愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする。 (2) 一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす。 (3) 個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ。 (4) 一人一人の生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする。 (5) おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる。</p>	<p>(1) 保育教諭等の愛情豊かな受容の下で、安定感をもって生活をする。 (2) 食事や午睡、遊びと休息など、幼保連携型認定こども園における生活のリズムが形成される。 (3) 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ。 (4) 様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ。 (5) 身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く。 (6) 保育教諭等の助けを借りながら、衣類の着脱を自分でしようとする。 (7) 便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる。</p>	<p>(1) 保育教諭等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。 (2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 (3) 進んで戸外で遊ぶ。 (4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。 (5) 保育教諭等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。 (6) 健康な生活のリズムを身に付ける。 (7) 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。 (8) 幼保連携型認定こども園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。 (9) 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。 (10) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。</p>	<p>46細目 (中教審幼児教育部会資料)より</p> <p>・安定感や解放感を感じつつ、心と体を十分に動かさながら充実感や満足感を持って環境に関わり行動するようになる。</p> <p>・体を動かす様々な活動に目標を持って立ち向かったり、困難にたずみずいでも気持ちを切り替えて自分なりに乗り越えようとして、根気強くやり抜くことで活動意欲を満足させ、自ら体を動かすようになる。</p> <p>・適切な活動を選び、体を動かす気持ちよさや自ら体を動かそうとする意欲を持ち、いろいろな場面に応じて体の諸部位を十分に動かし進んで運動するようになる。</p> <p>・様々な機会を通して食べ物への興味や関心を持ち、皆で食べる美味しく、楽しいという経験を積み重ね、和やかな雰囲気の中で、親しく進んで食べるようになる。</p>
内容の取扱い			
<p>(1) 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、温かい触れ合いの中で、心と体の発達を促すこと。特に、寝返り、お座り、はいはい、つかまり立ち、伝い歩きなど、発育に応じて、遊びの中で体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。 (2) 健康な心と体を育てるためには望ましい食習慣の形成が重要であることを踏まえ、離乳食が完了期へと徐々に移行する中で、様々な食品に慣れるようにするとともに、和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。なお、食物アレルギーのある園児への対応については、学校医等の指示や協力の下に適切に対応すること。</p>	<p>(1) 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、園児の気持ちに配慮した温かい触れ合いの中で、心と体の発達を促すこと。特に、一人一人の発育に応じて、体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。 (2) 健康な心と体を育てるためには望ましい食習慣の形成が重要であることを踏まえ、ゆったりとした雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。なお、食物アレルギーのある園児への対応については、学校医等の指示や協力の下に適切に対応すること。 (3) 排泄の習慣については、一人一人の排尿間隔等を踏まえ、おむつが汚れていないときに便器に座らせるなどにより、少しずつ慣れさせるようにすること。 (4) 食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなど、生活に必要な基本的な習慣については、一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で行うようにし、園児が自分でしようとする気持ちを尊重すること。また、基本的な生活習慣の形成に当たっては、家庭での生活経験に配慮し、家庭との適切な連携の下で行うようにすること。</p>	<p>(1) 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、園児が保育教諭等や他の園児との温かい触れ合いの中で自己の存在感や充実感を味わうことなどを基盤として、しなやかな心と体の発達を促すこと。特に、十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。 (2) 様々な遊びの中で、園児が興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することにより、体を動かす楽しさを味わい、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。その際、多様な動きを経験する中で、体の動きを調整するようにすること。 (3) 自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶことにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、園児の興味や関心が戸外にも向くようにすること。その際、園児の動線に配慮した園庭や遊具の配置などを工夫すること。 (4) 健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを踏まえ、園児の食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で保育教諭等や他の園児と食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味や関心をもったりするなどし、食の大切さに気付き、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。 (5) 基本的な生活習慣の形成に当たっては、家庭での生活経験に配慮し、園児の自立心を育て、園児が他の園児と関わりながら主体的な活動を展開する中で、生活に必要な習慣を身に付け、次第に見通しをもって行動できるようにすること。 (6) 安全に関する指導に当たっては、情緒の安定を図り、遊びを通して安全についての構えを身に付け、危険な場所や事物などが分かり、安全についての理解を深めるようにすること。また、交通安全の習慣を身に付けるようにするとともに、避難訓練などを通して、災害などの緊急時に適切な行動がとれるようにすること。</p>	<p>・健康な生活に関わる人々に接したり、社会の情報を取り入れたりなどして、自分の健康に対する関心を高め、体を大切に活動を進んで行う気持ちを持ち、健康な生活リズムを身に付けるようになる。</p> <p>・遊びや生活を通して安全についての構えを身に付け、危険な場所、危険な遊び方、災害時などの緊急時の適切な行動の仕方が分かり、安全に気を配り状況に応じて安全な行動がとれるようになる。</p> <p>・衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動の必要性が分かり、自分の力で行うために思い巡らしたり思い合わせたり工夫したりなどして意欲や自信を持って自分でできるようにする。</p> <p>・幼稚園における生活の仕方を身に付け、集団での生活や場の使い方などの状況を予測して準備し片付けたりなどして、自分たちの生活に必要な行動に見通しを持って自立的に取り組むようになる。</p>

三つの視点から5領域及び育ってほしい姿への対照表(人間関係) 参照: 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

乳児期	満1歳以上満3歳未満	満3歳以上	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 10項目より			
三つの視点より	5領域より	5領域より	【自立心】	【協同性】	【道徳性・規範意識の芽生え】	【社会生活との関わり】
身近な人と気持ちが通じ合う	人間関係	人間関係	【自立心】	【協同性】	【道徳性・規範意識の芽生え】	【社会生活との関わり】
<p>【受容的・応答的な関わりの中で、何かを伝えようとする意欲や身近な人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う。】</p> <p>(1) 安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。 (2) 体の動きや表情、発声等により、保育教諭等と気持ちを通わせようとする。 (3) 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。</p>	<p>【他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。】</p> <p>(1) 幼保連携型認定こども園での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる。 (2) 周囲の園児等への興味・関心が高まり、関わりをもととする。 (3) 幼保連携型認定こども園の生活の仕方に慣れ、きまりの大切さに気付く。</p>	<p>【他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。】</p> <p>(1) 幼保連携型認定こども園の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 (2) 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもち、 (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p>	<p>身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行動するために考えたり、工夫したりしながら、諦めずやり遂げること達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。</p>	<p>友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したり、充実感をもち、やり遂げようとする。</p>	<p>友達と様々な体験を重ねる中で、よいことや悪いことが分り、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立つて行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分り、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いをつけることが、きまりを守るにつれ、守ったりするようになる。</p>	<p>家族を大切にしようとする気持ちを持つとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付く。相手の気持ちを考え、関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼保連携型認定こども園内外の様々な環境に關わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになる。また、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。</p>
内容			46細目(中教審幼児教育部会資料)より			
<p>(1) 園児からの働き掛けを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉掛けによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす。 (2) 体の動きや表情、発声、囁語等を優しく受け止めても、他に園児との関わりを楽しむ。 (3) 生活や遊びの中で、自分の身近な人の存在に気付く。親しみの気持ちを表す。 (4) 保育教諭等による語り掛けや歌い掛け、発声や囁語等への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ。 (5) 温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生える。</p>	<p>(1) 保育教諭等や周囲の園児等との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる。 (2) 保育教諭等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす。 (3) 身の回りに様々な人がいることに気付く。徐々に他の園児との関わりをもつ。 (4) 保育教諭等の仲立ちにより、他の園児との関わり方を少しずつ身につける。 (5) 幼保連携型認定こども園の生活の仕方に慣れ、きまりの大切さに気付く。 (6) 生活や遊びの中で、年長児や保育教諭等の真似をしたり、こっこ遊びを楽しんだりする。</p>	<p>(1) 保育教諭等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 (2) 自分で考え、自分で行動する。 (3) 自分でできることは自分でする。 (4) いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 (5) 友達の積極的に関わりながら喜びや楽しみを共感し合う。 (6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 (7) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする。 (8) よいことや悪いことがあることに気付く。考えながら行動する。 (9) 友達との関わりを深め、思いやりをもつ。 (10) 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付く。守ろうとする。 (11) 共同の道具や用具を大切に、皆で使う。 (12) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人と親しみをもつ。</p>	<p>・先生や友達と共に生活をつくり出す喜びを見出し、自分の力で行動する。思い巡らしたりなどして自分でなければならぬことは自覚して行うようになる。</p> <p>・活動を楽しむ中で、自分のことは自分で考えて行い、自分でできないことは実現できるように工夫したり、先生や友達の手を借りたりして、自分自身でやり遂げようとする。</p> <p>・自分から環境に関わり、いろいろな活動や遊びを生み出す中で出会う難しさを乗り越え、諦めず自分の力で解決し、やり遂げ、満足感や達成感を味わい自らの生活を確立するようになる。</p>	<p>・友達と積極的に関わり、様々な出来事を共有しながら多様な感情の交流を通して、友達への思いや考えなどに異なり、自己の存在を感じたりしながら行動するようになる。</p> <p>・幼児同士の関わりが深まる中で互いの思いや考えに気付く。分るよう伝えたり、相手の気持ちを理解して自分の思いの表し方を考えたり、我慢したり、気持ちを切り替えたりしながら互いに関係を築き、分り合えるようになる。</p> <p>・友達との関わりを通して互いの感じ方や考え方に気付く。互いのよさが分り、それに応じた関わりを通して、学級全体などで楽しむから一緒に遊びを進めていくようになる。</p> <p>・人と共にいる喜びを感じ、学級皆で目的や願いを共有し志向の中で、話し合ったり、取りなしたり、皆の考え方をまとめたり、自分の役割を考えて行動した付け問題の解決・実現に向け個々のよさを発揮し工夫したり、協力したりする楽しさや充実感を味わいながらやり遂げるようになる。</p>	<p>・他の幼児との様々な葛藤などの体験を重ねてよいこと悪いことが分り、自分で考えようとする気持ちを持ち、思い巡らしたりなどして自分の考えをより適切にしながら行動するようになる。</p> <p>・友達などの気持ちを理解したり共感したり、相手の立場から自分の行動を振り返りして、思いやりを持って関わり相手の気持ちを大切にしながら行動するようになる。</p> <p>・学級の皆と心地よく過ごしたり、より遊びを楽しんだりするために決まりのあることが分り、守ったり、必要に応じて作り替えたり、新たに作り出して考え工夫し守るようになる。</p> <p>・公共施設を訪れ、それが皆の物であり自分に関係の深い場であることが分り、大切に利用するようになる。</p>	<p>・親や祖父母など家族から愛されていることに気付く。家族を大切にしようとする気持ちを持つようになる。</p> <p>・小学生・中学生、高齢者や働く人々など自分の生活に関係の深い地域の人々と触れ合いの中で、自分から親しみの気持ちを持って接し、自分が役に立つ喜びを感じるようになる。</p> <p>・四季折々の地域の伝統的な行事などへの参加を通して、自分たちの住む地域のよさを感じ、地域が育んできた文化や生活などの豊かさや、一層親しみを覚えるようになる。</p> <p>・目的に必要な情報を得て友達同士で伝え合ったり、活用したり、情報に基づき思いを合せていくようになる。</p> <p>・公共施設を訪れ、それが皆の物であり自分に関係の深い場であることが分り、大切に利用するようになる。</p> <p>・国旗が掲揚される様々な行事への参加や、運動会などの行事において自分で国旗を作ったりして日常生活の中で国旗に親しみを感じることにし、日本の国旗や国際理解への意識や思いが芽生えるようになる。</p>
内容の取扱い						
<p>(1) 保育教諭等との信頼関係に支えられて生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し、園児の多様な感情を受け止め、温かく受容的・応答的に関わり、一人一人に応じた適切な援助を行うようにすること。 (2) 身近な人と親しみをもって接し、自分の感情などを表し、それに相手や応答する言葉を聞くことを通じて、次第に言葉が獲得されていくことを考慮し、楽しい雰囲気の中で保育教諭等との関わり合いを大切に、ゆくりと優しく話し掛けるなど、積極的に言葉のやり取りを楽しむことができるようにすること。</p>	<p>(1) 保育教諭等との信頼関係に支えられて生活を確立するとともに、自分で何かをしようとする気持ちが旺盛になる時期であることを鑑み、そのような園児の気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに、応答的に関わり、適切な援助を行うようにすること。 (2) 思い通りにいかない場合等の園児の不安定な感情の表出については、保育教諭等が受容的に受け止めるとともに、そうした気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることへの気付かせ等につなげていくように援助すること。 (3) この時期は自己と他者との違いの認識がまだ十分ではないことから、園児の自我の育ちを見守るとともに、保育教諭等が仲立ちとなって、自分の気持ちを相手に伝えることや相手の気持ちに気付くことの大切さなど、友達の気持ちや友達との関わり方を丁寧に伝えていくこと。</p>	<p>(1) 保育教諭等との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し、園児が自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら諦めずやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行動することの充実感を味わうことができるよう、園児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。 (2) 一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていくようにすること。その際、集団の生活の中で、園児が自己を発揮し、保育教諭等や他の園児に認められる体験をし、自分のよさや特徴に気付く。自信をもって行動できるようにすること。 (3) 園児が互いに関わりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるようになるとともに、他の園児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。 (4) 道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、園児が他の園児との関わりの中で他人の存在に気付く。相手を尊重する気持ちをもって行動できるように、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通じて豊かな心が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまづきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えていくことに配慮すること。 (5) 集団の生活を通して、園児が人との関わりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、園児が保育教諭等との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気付く。自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。 (6) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人と触れ合い、自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して、これらの人々などに親しみをもち、人と関わることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。また、生活を通して親や祖父母などの家族の愛情に気付く。家族を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。</p>	<p>・家族、友達、先生、地域の人々などと親しみ合い、幼児なりに支え合う経験を積み重ね、自分の感情や意志を表現し共感しながら、自分のよさや特徴に気付く自信を持って行動するようになる。</p> <p>・家族、友達、先生、地域の人々などと親しみ合い、幼児なりに支え合う経験を積み重ね、自分の感情や意志を表現し共感しながら、自分のよさや特徴に気付く自信を持って行動するようになる。</p>	<p>・人と共にいる喜びを感じ、学級皆で目的や願いを共有し志向の中で、話し合ったり、取りなしたり、皆の考え方をまとめたり、自分の役割を考えて行動した付け問題の解決・実現に向け個々のよさを発揮し工夫したり、協力したりする楽しさや充実感を味わいながらやり遂げるようになる。</p>	<p>・自分の気持ちを調整しながら、友達と折り合いを付けたり、取りなしたり取り持ったりして周囲との関わりを深め、決まりを守るようになる。</p>	<p>・国旗が掲揚される様々な行事への参加や、運動会などの行事において自分で国旗を作ったりして日常生活の中で国旗に親しみを感じることにし、日本の国旗や国際理解への意識や思いが芽生えるようになる。</p>

三つの視点から5領域及び育てほしい姿への対照表（環境） 参照：幼保連携型認定こども園教育・保育要領

乳児期	満1歳以上満3歳未満	満3歳以上	幼児期の終わりまでに育てほしい姿 10項目より		
三つの視点より	5領域より	5領域より			
身近なものと関わり感性が育つ	環境	環境	【思考力の芽生え】	【自然との関わり・生命尊重】	【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】
<p>【身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を培う。】</p> <p>(1)身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。 (2)見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。 (3)身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。</p>	<p>【周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。】</p> <p>(1)身近な環境に親しみ、触れ合の中で、様々なものに興味や関心をもつ。 (2)様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。 (3)見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の動きを豊かにする。</p>	<p>【周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。】</p> <p>(1)身近な環境に親しみ、自然と触れ合の中で様々な事象に興味や関心をもつ。 (2)身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたり、それを生活に取り入れようとする。 (3)身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</p>	<p>身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。</p>	<p>自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にす気持ちをもって関わるようになる。</p>	<p>遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。</p>
内容			46細目(中教審幼児教育部会資料)より		
<p>(1)身近な生活用具、玩具や絵本などが用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心をもつ。 (2)生活や遊びの中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気付き、感覚の働きを豊かにする。 (3)保育教諭等と一緒に様々な色彩や形のものや絵本などを見る。 (4)玩具や身の回りのものをつまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。 (5)保育教諭等のあやし遊びに機嫌よく応じたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする。</p>	<p>(1)安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする。 (2)玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ。 (3)身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く。 (4)自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境を捉える感覚が育つ。 (5)身近な生き物に気付き、親しみをもつ。 (6)近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ。</p>	<p>(1)自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。 (2)生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。 (3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。 (4)自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。 (5)身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。 (6)日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。 (7)身近な物を大切にすること。 (8)身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べて、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。 (9)日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。 (10)日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。 (11)生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。 (12)幼保連携型認定こども園内外の行事において国旗に親しむ。</p>	<p>・身近な環境に積極的に関わり、自分から気付いたり、発見を楽しんだり、考えたり、振り返ったり、それを別のところで活用したりするようになる。</p> <p>・様々な環境に積極的に関わる中で、より深い興味を抱き、不思議に思ったことなどを探究するようになる。</p> <p>・遊びが深まる中で、多様な関わりを楽しみ、予想したり、確かめたり、振り返ったりして興味や関心を深めるようになる。</p> <p>・友達などの様々な考えに触れる中で、自己の思いや考えなどを自ら思い合わせたり考え直したりなどして、新しい思いや考えを生み出す喜びや味わいを感じながらよりよいものにするようになる。</p> <p>・物との多様な関わりの中で、物の性質や仕組みについて気付き、思い巡らし物を使いこなすようになる。</p> <p>・身近な物や用具などの特性や仕組みを生かしたり、いろいろな予想をしたりし、楽しみながら工夫して使うようになる。</p>	<p>・自然に触れて感動する体験を通して、自然の大きさや不思議さなどを感じ、好奇心や探究心を持って思い巡らし言葉などで表しながら、科学的な見方や考え方が芽生え、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。</p> <p>・同じものでも季節により変化するものがあることが分かり、変化に応じて生活や遊びを変えるようになる。</p> <p>・自然現象を遊びに取り入れれたり、自然の不思議さをいろいろな方法で確かめたりして、身近な事象への関心が高まるようになる。</p> <p>・共に遊んだり、世話をしたりなどする中で、生き物への愛着を感じ、生命の営みの不思議さや生命の尊さに気付き、生命の素晴らしさに感動して、身近な動植物を命あるものとしていたわり大切にす気持ちを持って関わるようになる。</p>	<p>・生活や遊びの中で自分たちに関係の深い数量、長短、広さや速さ、図形の特徴などに親しむ経験を重ね、必要感から数えたり、比べたり、組み合わせたりするようになる。</p> <p>・生活や遊びの中で標識や文字が人と人をつなぐ役割を持つことに気付き、読んだり、書いたり、使ったりするようになる。</p>
内容の取扱い					
<p>(1)玩具などは、音質、形、色、大きさなど園児の発達状態に応じて適切なものを選び、その時々園児の興味や関心を踏まえるなど、遊びを通して感覚の発達を促されるものとなるように工夫すること。なお、安全な環境の下で、園児が探索意欲を満たして自由に遊べるよう、身の回りのものについては常に十分な点検を行うこと。 (2)乳児期においては、表情、発声、体の動きなどで、感情を表現することが多いことから、これらの表現しようとする意欲を積極的に受け止めて、園児が様々な活動を楽しむことを通じて表現が豊かになるようにすること。</p>	<p>(1)玩具などは、音質、形、色、大きさなど園児の発達状態に応じて適切なものを選び、遊びを通して感覚の発達を促されるように工夫すること。 (2)身近な生き物との関わりについては、園児が命を感じ、生命の尊さに気付く経験へとつながるものであることから、そうした気付きを促すような関わりとなるようにすること。 (3)地域の生活や季節の行事などに触れる際には、社会とのつながりや地域社会の文化への気付きにつながるものとなることを望ましいこと。その際、幼保連携型認定こども園内外の行事や地域の人々との触れ合いなどを通して行うこと等も考慮すること。</p>	<p>(1)園児が、遊びの中で周囲の環境と関わり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。また、他の園児の考えなどに触れて新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自分の考えをよりよいものにしようとする気持ちが育つようにすること。 (2)幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、園児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、園児が自然との関わりを深めることができるよう工夫すること。 (3)身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分から関わろうとする意欲を育てるとともに、様々な関わり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にす気持ち、公共心、探究心などが養われるようにすること。 (4)文化や伝統に親しむ際には、正月や節句など我が国の伝統的な行事、国歌、唱歌、わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて、社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすること。 (5)数量や文字などに関しては、日常生活の中で園児自身の必要感に基づく体験を大切にし、数量や文字などに関する興味や関心、感覚が養われるようにすること。</p>			

三つの視点から5領域及び育てほしい姿への対照表(言葉) 参照: 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

乳児期	満1歳以上満3歳未満	満3歳以上	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 10項目より
三つの視点より	5領域より	5領域より	
身近な人と気持ちが通じ合う	言葉	言葉	【言葉による伝え合い】
<p>[受容的・応答的な関わりの中で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う。]</p> <p>(1) 安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。 (2) 体の動きや表情、発声等により、保育教諭等と気持ちを通わせようとする。 (3) 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。</p>	<p>[経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。]</p> <p>(1) 言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。 (2) 人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする。 (3) 絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる。</p>	<p>[経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。]</p> <p>(1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 (2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 (3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育教諭等や友達と心を通わせる。</p>	<p>保育教諭等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。</p>
内容			46細目 (中教審幼児教育部会資料)より
<p>(1) 園児からの働き掛けを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉掛けによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす。 (2) 体の動きや表情、発声、喃語等を優しく受け止めてもらい、保育教諭等とのやり取りを楽しむ。 (3) 生活や遊びの中で、自分の身近な人の存在に気付き、親しみの気持ちを表す。 (4) 保育教諭等による語り掛けや歌い掛け、発声や喃語等への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ。 (5) 温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生える。</p>	<p>(1) 保育教諭等の応答的な関わりや話し掛けにより、自ら言葉を使おうとする。 (2) 生活に必要な簡単な言葉に気付き、聞き分ける。 (3) 親しみをもって日常の挨拶に応じる。 (4) 絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ。 (5) 保育教諭等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ。 (6) 保育教諭等を仲立ちとして、生活や遊びの中で友達との言葉のやり取りを楽しむ。 (7) 保育教諭等や友達の言葉や話に興味や関心をもって、聞いたり、話したりする。</p>	<p>(1) 保育教諭等や友達の言葉や話に興味や関心もち、親しみをもって聞いたり、話したりする。 (2) したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。 (3) したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。 (4) 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。 (5) 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。 (6) 親しみをもって日常の挨拶をする。 (7) 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。 (8) いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。 (9) 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。 (10) 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。</p>	<p>・相手の話の内容を注意して聞いて分かったり、自分の思いや考えなどを伝える相手や状況に応じて分かるように話したり、話し合ったりするなどして、考えをまとめ深めるようになり、言葉を通して先生や友達と心を通わせるようになる。</p> <p>・思い巡らしたりしたことなどを言葉で表現することを通して、生活や遊びの中で文字などが果たす意味や役割、必要性が分かり、必要に応じて具体的な物と対応させて、文字を読んだり、書いたりするようになる。</p> <p>・絵本や物語などに親しみ、自分の未知の世界に出会うなどしながら興味を持って聞き、思いを巡らすなどの楽しさに浸ることを通じて、その言葉の持つ音の美しさや意味の面白さなどを友達と思い合わせ、必要に応じて言葉による表現を楽しむようになる。</p>
内容の取扱い			
<p>(1) 保育教諭等との信頼関係に支えられて生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮して、園児の多様な感情を受け止め、温かく受容的・応答的に関わり、一人一人に応じた適切な援助を行うようにすること。 (2) 身近な人に親しみをもって接し、自分の感情などを表し、それに相手が応答する言葉を聞くことを通じて、次第に言葉が獲得されていくことを考慮して、楽しい雰囲気の中での保育教諭等との関わり合いを大切に、ゆっくりと優しく話し掛けるなど、積極的に言葉のやり取りを楽しむことができるようにすること。</p>	<p>(1) 身近な人に親しみをもって接し、自分の感情などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通じて、次第に言葉が獲得されていくものであることを考慮して、楽しい雰囲気の中で保育教諭等との言葉のやり取りができるようにすること。 (2) 園児が自分の思いを言葉で伝えるとき、他の園児の話などを聞くことを通じて、次第に話を理解し、言葉による伝え合いができるようになるよう、気持ちや経験等の言語化を行うことを援助するなど、園児同士の関わり合いの仲立ちを行うようにすること。 (3) この時期は、片言から、二語文、ごっこ遊びでのやり取りができる程度へと、大きく言葉の習得がむ時期であることから、それぞれの園児の発達の状況に応じて、遊びや関わり工夫など、保育の内容を適切に展開することが必要であること。</p>	<p>(1) 言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通じて次第に獲得されていくものであることを考慮して、園児が保育教諭等や他の園児と関わることにより心を動かされるような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。 (2) 園児が自分の思いを言葉で伝えるとき、保育教諭等や他の園児などの話を興味をもって注意して聞くことを通じて次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること。 (3) 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせてたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。 (4) 園児が生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。この際、絵本や物語に親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること。 (5) 園児が日常生活の中で、文字などを使いながら思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを味わい、文字に対する興味や関心をもつようにすること。</p>	<p>・幼稚園生活を展開する中で、新たな環境との出会いを通して、幼児の持っている言葉が膨らんだり、未知の言葉と出会ったりする中で、新しい言葉や表現に関心が高まり、それらの獲得に楽しさを感じるようになる。</p>

三つの視点から5領域及び育てほしい姿への対照表(表現) 参照: 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

乳児期	満1歳以上満3歳未満	満3歳以上	幼児期の終わりまでに 育てほしい姿 10項目より
三つの視点より	5領域より	5領域より	
身近なものと関わり感性が育つ	表現	表現	【豊かな感性と表現】
<p>【身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を培う。】</p> <p>(1)身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。 (2)見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。 (3)身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。</p>	<p>【感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。】</p> <p>(1)身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。 (2)感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。 (3)生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。</p>	<p>【感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。】</p> <p>(1)いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 (2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 (3)生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</p>	<p>心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。</p>
内容			46細目 (中教審幼児教育部会資料)より
<p>(1)身近な生活用具、玩具や絵本などが用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心をもつ。 (2)生活や遊びの中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気づき、感覚の動きを豊かにする。 (3)保育教諭等と一緒に様々な色彩や形のものや絵本などを見る。 (4)玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。 (5)保育教諭等のあやし遊びに機嫌よく応じたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする。</p>	<p>(1)水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。 (2)音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。 (3)生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。 (4)歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする。 (5)保育教諭等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする。 (6)生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する。</p>	<p>(1)生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。 (2)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。 (3)様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。 (4)感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどとする。 (5)いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。 (6)音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。 (7)かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどとする。 (8)自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。</p>	<p>・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、思いを膨らませ、様々な表現を楽しむ、感じたり考えたりするようになる。</p> <p>・生活や遊びの中で感じたことや考えたことなどを音や動きなどで楽しんだり、思いのままにかいたり、つくったり、演じたりなどして表現するようになり、友達と一緒に工夫して創造的な活動を生み出していくようになる。</p> <p>・自分の素朴な表現が先生や他の園児に受け止められる経験を積み重ねながら、動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの喜びを感じ、友達と一緒に表現する過程を楽しみ表現する意欲が高まるようになる。</p>
内容の取扱い			
<p>(1)玩具などは、音質、形、色、大きさなど園児の発達状態に応じて適切なものを選び、その時々園児の興味や関心を踏まえるなど、遊びを通して感覚の発達が促されるものとなるように工夫すること。なお、安全な環境の下で、園児が探索意欲を満たして自由に遊べるよう、身の回りのものについては常に十分な点検を行うこと。 (2)乳児期においては、表情、発声、体の動きなどで、感情を表現することが多いことから、これらの表現しようとする意欲を積極的に受け止めて、園児が様々な活動を楽しむことを通して表現が豊かになるようにすること。</p>	<p>(1)園児の表現は、遊びや生活の様々な場面で表出されているものであることから、それらを積極的に受け止め、様々な表現の仕方や感性を豊かにする経験となるようにすること。 (2)園児が「試行錯誤しながら様々な表現を楽しむことや、自分の力でやり遂げる充実感などに気付くよう、温かく見守るとともに、適切に援助を行うようにすること。 (3)様々な感情の表現等を通じて、園児が自分の感情や気持ちに気付くようになる時期であることに鑑み、受容的な関わりの中で自信をもって表現することや、諦めずに続けた後の達成感を感じられるような経験が蓄積されるようにすること。 (4)身近な自然や身の回りの事物に関わる中で、発見や心が動く経験が得られるよう、諸感覚を働かせることを楽しむ遊びや素材を用意するなど保育の環境を整えること。</p>	<p>(1)豊かな感性は、身近な環境と十分に関わる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動を他の園児や保育教諭等と共有し、様々な表現することを通して養われるようにすること。その際、風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気付くようにすること。 (2)幼児期の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、保育教諭等はそのような表現を受容し、園児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、園児が生活の中で園児らしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。 (3)生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、様々な素材や表現の仕方に親しんだり、他の園児の表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。</p>	